

▽本号は昭和四十九年度の現宗研活動の一端をまとめたものです。日蓮教学と教化のかかわり方、現代社会の諸問題と結合した研究活動の性が明らかにされつつあります。本誌は、まだ不充分ですが、機に適した課題にとりくみながら、教学・歴史・宗教学・社会学等々の側面から研究内容を深めたいと念願しています。

▽室住一妙現宗研顧問の一文は、昨年の公開講座で発表した内容に補筆したもので、さきの課題に開じし、△現代をいかす宗学とは何か▽という重要な現点を提起されたと思います。現代とり結ぶ宗学の原点として、信仰と宗学の接点を根本的に問い合わせるために、師の心奥にふれつつ、その提示された意味を考えさせられる一文だと思います。

▽本号は、△靖国問題と国家神道▽を特集しました。現宗研では昨年、靖国法案反対声明を出し、また同問題一問一答を「日蓮宗新聞」に公表しました。本特集は、それに統いて研究面から、靖国問題を再検討しようとするものです。

△靖国問題はそれが法案として国会に提出され、憲法問題をふくむ現代政治の動向と深くかかわっているという意味では、すぐれて政治的、社会的問題です。「靖国法案」から「表敬法案」へと名目は変わっても、それがヨロイの上にコロモをきたものにすぎず、これを推進する側がどのような動きを現時点で示しているのが、をまとめたのが繩田論文です。こうした動向や意図を私たちもたえず注視せねばなりません。

▽靖国問題は、政治問題だけではありません。以上、私た

ちの信仰のあり方にかかわっています。仏と神道の神とのあり方について宗教と政治とのかかわり方、法要葬儀、死者供養、さらには教学、布教、教団の社会的あり方にいたる信仰全般にかかわっています。日蓮聖人の教えた私たちにとって、聖人の教えに導びかれつつ、この問題を考えることがいま要請されており、まさにそれに応えることが、教学と教化、教学と現代の結合を具現化する努力でもあります。これを回避する宗学は、その真偽を問われるといつても過言ではないと思います。同問題はまだ死や死者、戦没者に対する日本人の意識と本宗の回向ないし法要葬儀、墓をふくむ宗教活動とは一体いかなるかかわり方をもつか、もたねばならないのか、などの問題も深めねばならないでしょう。

▽これらの課題に対処していく明鏡を与えてくれるのが、とくに近代の国体と国家神道下の歴史です。この分野の研究にうつしだされるものは、神社の国家護持と同法要推進論者の意図をもうつしているといえます。

▽近江論文は、現在の神社國家護持論者からの批判にこたえ、それを教学、宗教学の立場から全般的に批判しつつ正そうとするもので、本宗で最初の近来における神社國家護持論批判の論文という意味をもっています。

▽中邊論文は、靖国問題をとらえる重要な側面としての公葬問題を示したもので、今まで殆どふれられていない点ですが、神仏式の抗争を中心に提示した一文です。

▽研究ノートの石川論文も、特集と関連しています。従来指摘されながら研究的にはほり下げのなされなかつた日蓮門下教団と

神社問題、日蓮遺文削除及び曼荼羅不敬の問題を考察するノートです。

▽本特集を土台にして、一層研究面での特集内容を豊かにしたいと考えています。同時に△靖国問題と日蓮宗徒△のあり方にについて、わかりやすいパンフレットをつくり、本宗の教師、宗徒が同問題を理解される手びきができるよう微力をつくしたいと考えています。

(I)

### △近刊予告

日蓮の伝記と思想

現宗研編・隆文館発行

日蓮聖人の一生と信仰・思想をご遺文にもとづいてわかりやすく示す一般むけの啓蒙書、現宗研ならびに教化研究活動にたずさわる本宗教師三十師の執筆による日蓮宗徒必読の書。

申込みは現宗研または隆文館 1100円(予定)

教化の友 第1号 現宗研・教化の友編集委員共編

教化布教を推進する指針となることをめざして発行される日蓮宗教師の教化交流誌。日常の教化体験や教化実例をもりこむ教師の手びき誌。

(年間講読 1500円・発行所・鎌倉本覚寺内)

▽既刊▽  
現宗研月報 第八号 現宗研発行  
研究所の事業内容を本宗教師に伝え、ともに研究交流を図つていく所内報。

昭和四十九年度事業報告のまとめを掲載。無料(△別)

現代に生きる日蓮聖人 現宗研編

降誕七五〇記念に発行された教師・信徒むけ研究書。  
申込みは宗務院総務部または現宗研△。六五〇円

(△別)